



桜門山岳会短信 163号

「池田祥子さんを支援する会」募金経過報告

日頃は、日本大学山岳部に対し、ご支援・ご指導を賜り、誠にありがとうございます。

この度の池田祥子さん転落事故におきまして、多額の寄付を賜り、関係者一同心より感謝申し上げます。わずか1ヶ月足らずで目標額500万円に到達いたしました。一部は御家族にお届けいたしました。いまだ意識が戻らない池田祥子ですが、皆様の暖かいお気持ちが届いていると思います。重ねて感謝申し上げます。

募金のご協力人数は、9月13日現在、会員205名中、105名でございます。募金は今年末で一旦締めさせていただきますので、ご賛同いただける方は引き続きご協力お願い致します。

日本大学山岳部 監督 大谷直弘、部員一同
桜門山岳会 会長 原田洋、理事長 古野淳

募金額詳細とご協力者名簿

金額	人数	計	ご協力者名(五十音順)
1,000,000	1	1,000,000	旭岡寛二、安西偕二郎、飯島正敏、飯田祐一郎、家口寛、石垣聡美、石川一郎、石川重樹、石坂昭二郎、磯川忠男、今村文彦、岩下誠、植木博幸、宇田川勲、鶴原孝裕、梅田一義、榎並洋三、大越壮一、大澤弘明、大谷直弘、大塚洋二、大野敦史、岡田貞夫、小川郁男、小田切吉夫、尾上昇、風巻和男、片柳實、柄澤洋城、川上伸生、川崎吉光、川那辺一、木津直人、木村克久、小林州行、今野善郎、斉藤大輔、嵯峨野宏、澤入誠司、柴田健一、清水肇、下崎雄二、下村忠幸、素木喬三、菅原省司、杉山敦雄、鈴木弘之、鈴木馨、鈴木浩太郎、鈴木快美、関孝治、関悦哉、芹沢浩正、高澤誠、高橋正彦、高緑繁伸、高山公明、田村幸英、田山将、津田和幸、鶴見暁子、土合敦彦、徳田昌久、戸倉正博、鳥居創太、中川平八、中川秀利、中嶋啓、西川正雄、野本修、羽賀正一、原澤修、原田洋、日本修、平戸伸之、福島祐二、藤井邦昭、船田良、古野淳、堀口章宣、本多直也、前田猪佐雄、松井正、松本達彦、松本陸雄、真鍋政道、向笠茂雄、村木富士、村口徳行、村田顕、村田慎也、望月重昭、本片山数雄、森泉寿夫、茂呂嘉之、安川英利、安田八郎、山平靖、山本晃弘、山本修、横山裕、若林裕子、和田政司、渡辺将則、渡邊勇一 以上105名
500,000	2	1,000,000	
300,000	1	300,000	
150,000	2	300,000	
100,000	6	600,000	
50,000	12	600,000	
40,000	2	80,000	
30,000	18	540,000	
25,000	4	100,000	
20,000	11	220,000	
10,000	36	360,000	
5,000	10	50,000	
合計	105	5,150,000	

募集・運営要領

基金名 池田祥子さんを支援する会

基金の目的 池田祥子さんの回復

募集締切 2013年12月31日

募集要領 同封の郵便局振替払込書(送金手数料無料)での送金、または下記の口座へお振り込みください。

みずほ銀行 新橋支店 普通 2220359
桜門山岳会 古野淳(ワモンサカケイフルノキヨシ)

支援要領 戴いた御寄付は池田祥子さんの治療費のために役立てます。

基金の実績報告 随時ご報告致します。

連絡先 寄付金についてのご質問等は、下記までご連絡下さい。

<池田祥子さんを支援する会>

事務局 古野淳(フルノキヨシ) 090-4171-8848 furuno@everest.co.jp

池田 祥子 いけだ しょうこ

日本大学 生物資源科学部 森林資源学科 3年

出身： 東京都日野市 都立日野高等学校卒
生年月日： 平成5年2月8日
入部： 平成23年11月



平成24年8月 夏山合宿 鷲羽岳にて



平成25年6月 初夏合宿 奥穂高岳山頂にて

日本大学山岳部での山行履歴

平成23年11月 丹沢 鍋割山
平成23年12月 三つ峠
平成24年2月 冬季スキー天懇
平成24年3月 丹沢 塔ノ岳
平成24年3月 奥多摩 三頭山
平成24年4月 高尾山
平成24年5月 金時山
平成24年5月 インドアクライミング
平成24年5月 日和田山クライミング
平成24年6月 初夏合宿
(横尾・涸沢定着)
平成24年7月 インドアクライミング
平成24年8月 夏山合宿
(劔沢定着、劔岳)
平成24年8月 後半縦走 (劔岳～槍ヶ岳)
平成24年9月 丹沢 葛葉川本谷
平成24年10月 奥多摩 鷹ノ巣沢
平成24年10月 日和田山クライミング
平成24年10月 富士山
平成24年10月 秋季天幕懇親会
平成24年10月 秋山合宿
(北アルプス 表銀座・東鎌尾根)
平成24年11月 初冬合宿
(北アルプス 八方尾根・唐松岳)
平成24年12月 群馬県 尼ヶ禿山
平成24年12月 冬山合宿
(北アルプス 燕岳)
平成25年2月 丹沢 檜洞丸
平成25年2月 二月合宿 ハヶ岳
平成25年2月 冬季スキー天懇
平成25年3月 上越 神楽峰山スキー
平成25年4月 奥多摩
越沢バットレスクライミング (2日間)
平成25年4月 高尾山
平成25年5月 日和田山クライミング
平成25年5月 山岳研修会 劔岳
平成25年6月 初夏合宿 (横尾・涸沢定着)
平成25年7月 奥多摩
越沢バットレスクライミング



平成24年8月 夏山合宿 薬師岳山頂にて

事故後の経過報告

監督 大谷直弘

本年、7月13日に奥多摩越沢バットレスにおきまして、岩登り練習中に2年生部員の池田祥子（生物資源科学3年）が転落いたしました事故につきましては、OB皆様からの多大なご寄附を賜り本当に有難うございました。そのご厚情に只々感謝の気持ちでいっぱいでございます。ここに改めてお礼を申し上げます。

早速ではございますが8月28日に募金の一部を池田部員のご家族に送金をさせて頂きました。池田部員のお母様よりお礼と、入院費用、リハビリの装具代に当てさせて頂きたいとの報告を頂きました。事故当日、東京医科大学八王子医療センターに緊急搬送され、同大学病院における集中治療室での緊急措置、その後一般病棟における外科的治療を経て、8月31日に府中市の366リハビリテーション病院に転院を致しました。現在は意識の回復と四肢のリハビリを目的とした入院・療養の段階に至っております。

池田部員の現在の状況につきましては下記の通りでございます

食事は流動食を鼻腔よりチューブにて摂取している。現在、固形食への摂取ができるよう嚥下のリハビリが行われております。

言語でのコミュニケーションはできないが、呼びかけに対し部分的にボディ・アクションによる意思表示が返ってくる場合があります。

歩行は出来ない状況です。

左目は開けることはできないが右目はしっかり見つめることができます。

左目の回復は厳しい状況とご家族から報告を受けております。

ベッド上で小物などの識別や簡単な移動訓練が行われております。

現在の366リハビリテーション病院における入院期間は本年12月末を予定しており、次の段階として自宅でのリハビリ・療養に移るとのことでした。

現役学生の活動について

山岳部の活動につきましては、事故後、監督・コーチ、OBにおきまして現場での事故後の検証、コーチ会におきましては学生を交えた経緯の分析、原因の究明を重ねて参りました。その検証を踏まえ再発防止に結びつくものを導き出し、事故報告書を取りまとめている状況です。現在、山行・合宿は行っておりませんが、部室での部会は通常通り勉強会やトレーニングを行っております。また、山行活動は前述の通り山岳部としては行っておりませんが、山での講習会等につきましては大学本部の許可を得て、その都度参加をさせて頂いております。

尚、学生による山行活動の再開の時期につきまして大学本部と調整中でございます。

山岳保険の取り扱いについて

当部では、学生の入部と同時に山岳保険の加入手続きを行っております。

死亡・後遺障害の最高保険金額は500万を上限と設定されていますが、事故後6ヶ月後の回復状況を踏まえて、医師の診断書を提出して後遺障害の程度に応じて3%から100%を乗じた金額を後遺障害保険金として支払われることとなっております。山岳保険の申請手続きには今少し時間を要することとなります。

傷害保険加入先	日本山岳協会山岳共済会	
引き受け保険会社	三井住友海上火災保険株式会社	
加入保険種類	登山コース	E タイプ
保証内容	死亡・後遺障害	5 0 0 万円
	遭難捜索費用	5 0 0 万円
	賠償責任	1 億円

緊急搬送、入院から 2 ヶ月が経過しようとしております。可能な限り傍らに寄り添い池田部員を励まし、その経過をみて参りました。日々、徐々にではありますが良くなっていることは確かです。

今、彼女の回復力を祈り、信じ、願うばかりであります。

今回の事故につきまして、OBの皆様にご心配おかけ致しましたことを幾重にもお詫び申し上げます。

学生の活動報告

GW 合宿

場 所) 北アルプス 劔岳

期 間) 4 月 2 9 日 ~ 5 月 5 日

メンバー) 3 年 CL 山浦、2 年 賀来・金原・須郷・宝迫、OB 飯田・関

行 動)

4 月 2 9 日 移動日

新宿 ~ 富山駅

4 月 3 0 日 富山駅 ~ 室堂 ~ 劔御前小屋 ~ 劔沢 BC 1 風雪 0.1

室堂に到着すると天気は既に荒れていた。この合宿中は終始膝下ラッセル。劔御前小屋で警備隊から今後も天候は芳しくないこと、近辺の北斜面は雪崩の危険性がある、といった情報を仕入れ BC1 を目指す。

5 月 1 日 雪上訓練 風雪 0.0

劔沢 BC1 ~ 雪上訓練開始 ~ 雪上訓練終了 ~ 劔沢 BC1

朝、劔岳が綺麗に見える。劔山荘より北に 5 0 0 m あたりの斜面を雪訓場を選び、歩行訓練を 9 0 分、8 の字歩行を 9 0 分と 3 時間歩き続けさせた。全員で滑落停止を練習。天気が荒れ始め、BC1 に帰ることにする。

5 月 2 日 雪上訓練 風雪 4.0

劔沢 BC1 ~ 雪訓場 ~ 劔沢 BC1

依然風が強い。別山から北にのびる尾根斜面で支点構築、各種ビレイの練習。さらに 1 本支点や土嚢袋を使った支点を交え懸垂下降を行い帰幕する。

5月3日 劔沢BC1～一服劔～劔沢BC1 曇り - 3.0

4時出発の予定であったが、天気は荒れていて7時出発。8時に一服劔に到着するが前劔の雪のつき方や隊員の歩行能力からリミットに間に合わないことは明白であったため下山を決定。雪洞訓練をして、2年生は全員雪洞で就寝する。

5月4日 劔沢BC1～くろゆりのコル～劔御前～劔御前小屋～雷鳥沢野営場BC2 曇り

宝迫のペースが上がらないため、他3名を関OBにお願いしザイルを張ってもらう。2ピッチ目は山浦がザイルを張る。全員ユマールで通過、ルンゼ帯を登り稜線に出た。風は吹き荒れ視界は10m程。ホワイトアウトナビゲーション技術の練習には恰好のシチュエーションであった。

5月5日 雷鳥沢野営場BC2～雄山～別山～雷鳥沢野営場BC2～室堂 晴れ

宝迫は体調不良のためテントキーパーとする。一の越山荘からメットを着用させ、アイゼンはザクザクと決まり頂上まで一気に上がる。別山で写真を撮りBC2に帰幕し撤収する。

総括

現状把握に関して、十分把握出来る充実した山行であったように思う。また、それに対し私の予想は大きく外れてはおらず彼らの力に対して程よい雪上訓練、課題、そして悪天候の経験をする事が出来たと思う。しかし、気がかりなのはやはり体力不足であって今後、常に体力強化は念頭に置いておかなければならないと感じた。リーダーシップ・メンバーシップに関して、これも少し前進したように思う。テント内や反省会中も頻繁に意見交換をしている姿も見受けられた。登攀技術向上に関してはこれからの復習次第であろう。全員センスは悪くないと感じている。これからもっと入出力を繰り返せる個人山行を行っていければ自ずと成果は出てくると期待できる。ともあれこの山行をきっかけに山を登る楽しさを感じさせることが出来たのであれば幸いである。また、後輩の訓練に尽力して下さったOBに感謝したい。(記・山浦)

初夏合宿

目 的) 槍・穂高概念の把握、歩行・生活技術の習得、奥穂高岳登頂

山 域) 北アルプス 穂高連峰・槍ヶ岳

期 間) 6月14日～21日

メンバー) 3年 CL 山浦、2年 M 賀来、池田、金原、須郷、宝迫、1年 荒木、櫻井、林、
桧山、水越、山縣、OB 飯田(コーチ)、関(コーチ)、大谷直弘(監督)

行 動)

6月14日 移動日 新宿～上高地

6月15日 上高地～明神～徳沢～横尾BC1 曇り後雨

1年生の登山靴の履き心地を確かめながら、明神、徳沢、横尾BC1に到着。ロープワーク実習。

6月16日 槍ヶ岳隊(2年パーティー) 横尾BC1～槍ヶ岳～横尾BC1 晴後曇り

横尾BC1～槍沢ロッジ～大曲～槍ヶ岳山荘～槍ヶ岳～横尾BC1

山頂まではほぼ全てが危険箇所であったが、無事に槍登頂。計画より30分早く帰幕した。

6月16日 蝶ヶ岳隊 横尾 BC1～蝶ヶ岳～横尾 BC1 晴後曇り

横尾 BC1 ～蝶ヶ岳～横尾 BC1

横尾 BC1 到着後、ザイルワークの練習をした。飯田コーチ、関コーチが横尾に到着後間もなく、槍ヶ岳隊も帰幕。

6月17日 雪上訓練 横尾 BC1～本谷橋～涸沢カール～本谷橋～横尾 BC1 晴

前穂5・6のコルより下の雪渓で直登・直下降、斜登高・斜下降、滑落停止を行う。雪上歩行に一年が慣れ始めた頃、大谷監督と櫻井が上高地から入山して合流する。

6月18日 雪上訓練 横尾 BC1～本谷橋～涸沢 BC2～涸沢カール～涸沢 BC2 曇り後雨

ヒュッテに到着するや否や雨が強くなる。テント設営後様子を見る事にする。午後になると雨が収まり始めたのでFIX訓練を行う。夜になると風が吹き荒れ、雨あしが強くなってきた。

6月19日 停滞 暴風雨

気温は高いが雨風が強い。一晩でかなりの雪渓が解け出している。叩き付けるような風が何度もV8を変形させた。一年生にはいい経験だと思い停滞を決める

6月20日 雪上訓練 涸沢 BC2～雪上訓練～涸沢 BC2 雨後曇り

朝一上空は雲がかかっておりアタックには踏み切れず、雪上訓練を行う。

6月21日 涸沢 BC2～奥穂高岳～涸沢 BC2～横尾～徳沢～明神～上高地 曇り後雨

桧山が体調不良を訴えたため飯田OBと涸沢BC2に残る。予定通り出発し、穂高岳山荘で賀来、池田に偵察に行かせるが、雪は全くないようだ。ザイルは出さず順調に登頂、槍が見えていた。

総括

メンバーそれぞれのコンディションを把握でき、目的は達したようにも思えるが、淡白な山行になりがちだったように思う。これからはこの人数でダイナミックさとコンパクトさを両立出来るような山行を意識したい。(記・山浦)

個人山行記録

・越沢バットレス (4月13～14日)

メンバー L山浦、賀来、宝迫、池田、須郷、OB飯田、関

・高尾山(新入生歓迎山行)(4月27日)

メンバー 金原、池田、宝迫、水越、山縣、篠崎、林、桧山、荒木、OB中嶋、大谷監督、関

・丹沢 葛葉川本谷 (5月3日)

メンバー L大谷監督、OB村木、賀来、井上、加藤

・飯能 日和田山(5月18日)

メンバー L山浦、池田、賀来、金原、須郷、宝迫、篠崎、水越、山縣

・北アルプス 剣岳 国立登山研修所 山岳研修会(5月22日～28日)

メンバー 金原、須郷

- ・丹沢 源次郎沢（５月２５日）
メンバー Ｌ大谷監督、ＯＢ関、宝迫、山縣、水越
- ・飯能 日和田山（５月２６日）
メンバー Ｌ山浦、賀来、林、桧山、櫻井、荒木、加藤、ＯＢ飯田
- ・丹沢 葛葉川本谷（６月２日）
メンバー Ｌ賀来、荒木、桧山、大谷監督
- ・丹沢 新茅の沢（６月９日）
メンバー Ｌ大谷監督、加藤
- ・奥多摩 水根沢谷（６月２９日）
メンバー Ｌ山浦、賀来、須郷、山縣、水越、篠崎
- ・モミソ沢 懸垂岩（６月３０日）
メンバー Ｌ賀来、他２名
- ・南秋川水系 軍刀利沢（６月３０日）
メンバー Ｌ関（ＯＢ）、金原、井上、櫻井
- ・丹沢 葛葉川本谷（７月７日）
メンバー Ｌ大谷監督、ＯＢ村木、賀来、井上、加藤

理事評議員会報告

５月２８日 出席者：山本、原田、大谷、古野、飯田、学生

- １） 学生の山行報告（劔沢定着、立山登頂）、６月の山行計画
- ２） 総会準備、暑気払いの予定

７月２日 出席者：原田、高澤、大谷、古野、鈴木、若林

- １） 総会資料、暑気払い、学生援助金等の発送作業
- ２） 天幕懇親会について
- ３） ９０周年について等

７月２３日 出席者：山本、原田、高澤、大谷、古野、家口、斉藤、鈴木、本多、飯田、関、
学生２名

- １） 池田祥子部員の越沢パットレス転落事故について
- ２） 本件の募金活動について、及び暑気払いの中止等について
- ３） 早急なる募金活動、大学との打ち合わせが必要

８月６日 出席者：原田、大谷、古野、鈴木（快）、関、山浦、賀来

- １） 池田祥子部員の事故及び容態について
- ２） 上記支援の為の募金活動について
- ３） 大学側の対応

８月２７日 出席者：大谷、古野、関、山浦

- １） 池田祥子部員に対する募金の状況、現時点までの金額、大学への対応
- ２） 秋季天幕懇親会開催について、予定通り開催する



アンテナ

訃報

機 1 5 卒 鞍田昌彦会員 が 2 0 1 3 年 3 月 2 日 老衰のためご逝去されました。
年齢は 9 0 幾つかとのこと。ご冥福をお祈り申し上げます。
連絡先：鞍田一子様

会員の住所変更のお知らせ

今野善郎 OB

編集後記：

今回の短信 1 6 3 号は池田祥子部員の事故により大学側から山岳部の活動が制限され本来の活動報告がお届け出来なかった事は残念ですが、理事長から「池田祥子部員を援助する募金活動」の中間報告が当初の目標額を上回った状況下で会員各位にご連絡出来た事、また御家族に当面集められた募金をお渡し出来た事は幸いと思っております。此れも偏に会員各位の温かいご理解の賜物と厚く御礼申し上げます。池田部員本人も徐々に回復に向かっていますが未だ意識がハッキリしていない容態であり今後も更なる御家族の費用負担が増える状況と判断しております。募金活動を更に本年 1 2 月まで延長し出来る限りのサポートを山岳部・桜門山岳会として推し進める所存ですので、何卒今後ともご支援ご高配を賜りたくお願い申し上げます。

会長 原田 洋
編集 / 若林